

座談会

肺がんをCT検診で早期発見

日本人の2人に1人が、がんにかかると言われます。中でも肺がんの死亡率は高く、海老名市でも毎年30人以上の市民が亡くなっています。このため市では、昨年6月から全国自治体に先駆けて肺がんのCT検診を実施しています。CT検診で早期発見・治療に結びついた市内在住の男性2人と海老名市医師会の医師が体験談や早期発見の大切さを話し合いました。



【座談会出席者】



高田恭宏さん
健康なまちづくり実行委員会柏ヶ谷地区会長、東柏ヶ谷三丁目自治会長



吉田茂男さん
海老名市民生委員児童委員、元東柏ヶ谷二丁目自治会長



田中昭太郎医師
海老名市医師会長



渡潤医師
海老名市医師会CT検診担当・海老名総合病院副院長

全国に先駆けて導入

田中医師会長 日本人の死因の第1位はがんであり、年間37万人が亡くなり、その倍以上の方々ががんにかかっています。まさに国民病です。海老名市は昭和58年からがん検診に取り組み、今年度は集団がん検診を23回実施しています。また、個別検診として胃がん、乳がん、子宮がん、前立腺がん検診を行い、肺がんはCTで検診しています。しかし、残念ながら市内では毎年250人以上の市民が、がんで亡くなっています。中でも肺がんの死亡率が増え、男性の死因の第1位です。そこで昨年から市医師会と協力してCTによる肺がん検診を始めました。CT検診を行う自治体は県内で初めてで、全国でも珍しいと聞いています。

吉田さん 健康なまちづくりの講習会を受けた際に肺がんのCT検診を知り、4月19日に検査を受けました。10日後に結果を知らされ、6月6日にがん手術を受けました。

田中医師会長 肺がん検診前は、自覚症状はなかったのですか。

自覚症状なく「まさか」

吉田さん 50年近くタバコを吸っていたので、風邪の時などは、せきやタンが。多少の息苦しさも感じたものの、慣れるにつれて普通の日常生活に戻りました。

同じ病室には、抗がん剤や放射線を投与される方もいられます。その人たちから、「手術できる人は最高ですよ」と言われ、早期発見のありがたさを感じました。退院後も抗がん剤を何回も投与される苦しさを考えたら、はるかに恵まれています。早期発見すれば、入院1週間前後で家に帰れるうえ、その後は日常生活ができるのですから。

私の場合は手術をすれば数カ月以内に命を救われた」と感謝しています。

市に命を救われた」と感謝しています。

吉田さん 私もステージ「IA」で、大きさは15^{mm}程度。リンパ節を取って調べた結果、転移はなし。退院後は薬を一切飲んでいません。肺の機能を復活させるために、運動を心がけています。

渡医師 普段、患者さんとじかに話す機会が少ない中、お2人から生の声を聞け、大変参考になりました。何らかの症状があり病院を受診して肺がんが見つかった人の場合は、病状が進行している場合が多いです。ぜひ無症状のうちにはCT検診を受けてください。

田中医師会長 最後に市民へのメッセージをお願いします。

吉田さん 早期発見の喜びを市民の皆さんにぜひ味わっていただきたい。入院中、「手術をできる人は幸せ」と何人も患者さんから聞きました。早期発見・治療で再び日常生活に戻る喜びを知っていただきたい。

高田さん 1週間で退院でき、こんなに健康に過ごせる自分を信じられないほどです。働き盛り世代はレントゲン撮影で済みます人が大半ですが、ぜひCT検診も利用してください。対象は40歳以上で、70歳以上なら無料で受診できるのであります。

が出ることはありません。が、まさかがんとは思いませんでした。

高田さん 私も自覚症状はまったくありませんでした。40年間ほど喫煙し、10年前に止めました。現役時代は会社の人間ドックを年1回受け、退職後は市の検診やレントゲン検査を受けていました。ですから夢にも肺がんなどは。...

1月にCT検診を受けたところ、肺がんと分かり、お先真っ暗の気持ちに。セカンドオペニオンにも相談した後の4月18日に手術しました。初期段階だから手術をすれば良くなると言われました。

田中医師会長 CT検診を受けた印象は？

高田さん 検査で苦痛は感じませんが、3月11日の東日本大震災以後、放射線に対する警戒感の高まりから、CT検診を不安視する傾向も強まりましたが。

渡医師 通常、肺がん検診はレントゲン撮影が主体です。レントゲンは1枚の写真に体や肺の前、後ろが重なり合って写るので、いろいろな血管などの正常構造と病変部の区別がつきにくい面が結構あります。その点、CTは体を輪切りにして撮影するので、重なりのない鮮明で、濃淡や陰影もはっきり

りした写真を見られます。

さらに、副次的な効果として肺がん以外にも心筋梗塞の原因となりうる動脈硬化や肝臓、胆のう腫瘍などが見つかるとあります。

田中医師会長 CT検診に伴う被ばく線量の影響はどうですか。

渡医師 被ばく線量はおおむね2・5ミリシーベルト以内で、従来の胸部レントゲン撮影の10倍ほどです。これは胃がん検診でバリウムを飲む場合と同じ被ばく線量です。ちなみに、人間に影響が出る被ばく線量は1000ミリシーベルト以上と言われています。

田中医師会長 CT検診は肺がんだけでなく、甲状腺、肝臓、胆のう、腎臓などの部位も診られることの意義をお聞きします。

CT検診の利点大きい

渡医師 確かに、他臓器の病気が見つかる場合もあります。しかし注意すべきは、市の検診はあくまで肺がんの発見を目的に機械を設定していることです。ですから必ずしも全ての病気が分かるわけではありません。

田中医師会長 肺がんCT検診の導入前と導入後を比較できるデータはありますか。

渡医師 平成22年度に市の肺がん集団

検診を受けた市民は1544人で、うち要精密検査が全体の4・5%に当たる71人。このうちの1人は肺がんと判明。10万人が検診を受けて何人が肺がんであるかを表す数値は「65」でした。

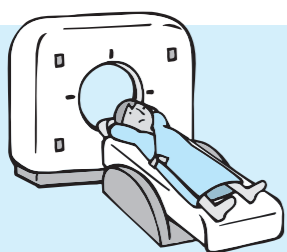
一方、同じ年に行った肺がんのCT検診受診者は576人で、うち要精密検査が8・5%に当たる49人。このうちの1人が肺がんでした。対10万人比での数値は「174」と、従来の検診の約3倍にもなります。やはりCT検診の拾い上げ効果が大きいと思います。

田中医師会長 肺がん検診の結果を知らされたとき、どんな気持ちでしたか。

吉田さん 担当医の話を聞くうちに初期だから手術をすれば治る可能性を感じ取れたので、もしかしたら治るかなと思いました。

高田さん 手術は4月でしたが、術後の判定はステージ「IA」と、4段階あるステージの中で最も初期でした。がんは10^{mm}大でした。

がんにかかると寝たきり状態になると想像していました。手術を終わってみると、びっくりするほど元気で、日常生活に支障がありません。肺活量を大きくするために、医師から歩くことを勧められ、1日1万歩以上歩きました。



●肺がんCT検診

40歳以上の市民を対象に50歳代まで3000円、60歳代2000円、70歳以上無料。申し込み・問い合わせは保健相談センター（電話235-7880）へ。

●肺がんシンポジウム

市と市医師会は12月10日(土)午後2時から4時半まで、市役所4階で肺がんをテーマにシンポジウム、特別講演会を開催。問い合わせは医師会事務局（電話234-3241）へ。